

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600737	事業の開始年月日	平成27年5月1日	
		指定年月日	平成27年5月1日	
法人名	株式会社 美咲			
事業所名	グループホーム みさき豊町			
所在地	(252-0305) 神奈川県相模原市南区豊町13-13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和3年2月9日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の南西側に米軍住宅が有り、そちら側に全居室が配置されている為、お部屋からの眺めが開けており、開放感があります。また、周辺に坂が無い為、お散歩に適しており、新型コロナ収束後は日常のお散歩を再開したいと思えます。また、水はけが良く、近くの河川も無い為水害に強く、地震以外の自然災害には縁遠い立地となっております。職員はご入居者様のペース第一に動いており、ご入居者様が安心して過ごして頂けるように努めております。レクリエーションや行事は、介護施設では良く見られる物から変化の強い珍しいものまで開催しており、ご入居者様には楽しんで頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月19日	評価機関 評価決定日	令和3年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線「相模大野」駅北口からバスに乗車、最寄りのバス停「豊町」の目の前にあります。平坦な道なので駅から徒歩でも17分ほどの利便性の良い立地です。建物の南西側は広い米軍住宅地になっています。 <優れている点> 職員は入居者一人ひとりの性格や状況を十分理解し、介護者の考えで行動せず、入居者本位・本人のペース第一で支援するようにしています。そのための取り組み事例として「ご意見ノート」があります。職員は入居者支援での気づきや提案を自由に記載しています。管理者は「対応できることはまずやってみる」というスタンスで職員の提案を取り上げています。その際は職員の対応を統一することをルール化しています。新型コロナウイルス感染症の流行が続いている状況で、「室内でできる年間レクリエーション」を職員が発案し、ひな祭り、花壇を作ろう、おやつ作りなどを計画しています。コロナなのでできない、ではなく、その中でもできることを検討し、入居者が安心して楽しく過ごしてもらうよう努めています。 <工夫点> コロナ禍のため、以前のような自由な面会は控えてもらっています。その中でも家族の意向を尊重し、ガラス窓越し、玄関のパーティション越しの面会に対応しています。ICTの活用によるメールやラインのほか、オンライン面会を実施した事例もあります。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご入居者様の生活ペースに合わせた事業所理念が日常のケアに反映される様にサービス提供時は心掛けている。	「第二の家族」「みさきで過ごせて本当に良かった」という主旨の法人理念を事業所の理念としています。入居者の生活ペースに、日々のケアのための事業所独自の理念を作るに関しては検討課題としています。	法人理念を踏まえた、事業所独自の理念を作り、さらに実践につなげていくことも期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ対応中の為、地域交流を控えている。コロナ対応が収束できれば自治会行事等への参加を再開予定している。	地域の情報は自治会の回覧板や民生委員から寄せられます。自治会の夏祭りに参加したり、町内会館の「ほほえみカフェ」で地域の人と交流をする、ボランティアの来訪など、これらの活動はすべてコロナ収束後に再開する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナ対応中の為、地域交流を控えている。収束後は運営推進会議等を通して地域貢献に活かしていく予定となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、新型コロナ対応の為、開催できておらず、書面での報告や意見収集のみとなっている。施設内を見て頂けない事や、書面のみでは伝わりにくい部分もあり、活用しきれていない。	新型コロナウイルス感染症対応のため、対面での運営推進会議は中止し、電話などでの意見収集や書面報告による開催に切り替えています。直接の意見交換や事業所の様子も実際に見てもらえないため伝わりにくい部分もありますが、努力を重ねています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	基本的には管理者が対応している。現在、コロナ対応の為、直接の訪問は行っていないが、必要に応じてご連絡させて頂いている。	運営推進会議の議事録を地域包括支援センター経由で送り、事業所の実情や取り組みを伝えていきます。入居者の区の担当ケースワーカーとは、電話あるいは担当者の来訪により連携しています。行政主催の研修も参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束防止委員会を開催し、事例を基に身体拘束に当たらないか検討し、当たりそうな時は解決策を話し合い、実行に移している。	3ヶ月ごとの身体拘束適正化委員会は全職員をメンバーとして、事例に基づいた話し合いを通し、身体拘束をしないケアについて意識を高めています。チェックリストによる自己チェックも定期的に行っています。入居者の安全確保のため、玄関、ユニット出入り口は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記、身体拘束委員会と併せて研修や会議を開催しており、虐待の発生や虐待に至りそうな案件のピックアップとその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を利用しているご入居者様がおり、後見人様と関わる事で制度の理解や活用の仕方を学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が対応している。契約時やそれ以前の見学や申し込み時にも十分な説明と質疑応答を行い、不安なく入居して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や日常の連絡の際に伺ったご意見や要望をケアプランやその他の業務に反映するように努めている。	コロナ禍のため、以前のような自由な面会は控えてもらっています。中でも家族の意向を尊重し、ガラス窓越し、玄関のパーティション越しの面会に対応しています。ICTの活用によるメールやラインのほか、オンライン面会を実施した事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ご意見ノートや日常のコミュニケーションから意見を上げてもらい、対応出来る処から反映させている。	職員が気づきや提案を自由に記載する「ご意見ノート」を活用しています。管理者は対応できることはまずやってみる、のスタンスで職員の提案を取り上げています。その際、対応を統一することをルール化して取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月、施設から本社に上げている月報や各種連絡時の報告にて職員や管理者の動向把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人作成の研修素材が有り、定期的に施設内研修を行なっている。但し、3密を避ける為、資料の配布と提出という形を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ対応の為、外部との交流は中止している。系列施設との連絡事項や地域包括との連絡は継続している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時から要望や不安点を伺い、ご説明を繰り返す事で安心してご入居いただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面談調査以外にも随時、お電話等で不明点や疑問点の相談を受けており、その都度、ご安心して頂けるようにご説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談時にADL等、ご本人の状態観察をさせて頂き、ご家族様ともお話の上で必要な支援を探っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様の生活ペースに合わせた事業所理念が日常のケアに反映される様にサービス提供時は心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ対応の為、直接の支援は難しいが、毎月の報告やケアプラン更新、異変時の連絡相談等、随時ご連絡させて頂く事で共存を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対応で面会中止が続いているが、オンライン面会や窓ガラス越しの面会などで対応させて頂いている。	入居者の多くが地元の人なので、コロナ禍以前はスーパーマーケット、ドラッグストアなど馴染みの店で入居後も継続して買い物に出かけています。また、美容院も職員が店先まで同行し、カットなどが終わる頃迎えに行っていました。訪問は自粛しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	意思疎通が取れず、難しい方もいらっしゃるが、それぞれの個性や性格を活かしながら声をかけ間に入って関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が主に対応している。 他施設への移動や看取り後の支援等、ご希望や状況に応じて支援させて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の様子観察や日常会話、モニタリング作業等でご本人の意向や希望の把握に努めている。	本人の思いや意向は入居者と一対一の入浴時間にゆっくり聴いたり、テレビを観ている時の話題から話を引き出したりしています。会話のやりとりが難しい場合は、職員の支援時の反応やその前後の本人の行動などから判断をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談調査でお話を伺い、ご本人様やご家族様、担当ケアマネジャー等から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	様子観察を常に行い、生活記録をとり、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活の様子からケアプラン会議を行ないアセスメント作成する。仮のケアプランを作成しご家族様、ご本人様に説明しご意見を伺ったうえで再度内容の調整を行い、実際のケアプランを作成している。	ケアプランは長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月で立てています。モニタリングは3ヶ月で行いますが、状況の変化が大きい場合は期間に拘わらず見直しをしています。「生活記録」書式はプランにそった支援のチェックができるようになっていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、各ご入居者様毎の生活記録を書いている。また、特記事項は日報に残し、朝と夕に申し送る事で情報共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じてケアプランの変更や区分変更、場合によっては他の介護サービスを進めるなど、ご本人とご家族様の状況に合わせた支援を行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会や地域包括センター等、地域の支えとなる物はあるがコロナ対応中の為、協力依頼や行事参加等が難しい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居時に施設の往診医とも相談し、往診で対応可能な方は往診を受けて頂いている。 ご入居以前から同じ病院に通院し続けている方もおり、選択の幅は広く取れるように心がけている。	月2回内科、週1回歯科の往診があります。入居前からのかかりつけ医や他診療科通院は原則家族対応ですが、職員が同行する事もあります。週1回看護師が来訪し、健康管理をしています。内科往診時に薬剤師も同行し、薬剤管理の確認などを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週一回、訪問看護師が来所し、ご入居者様の体調管理を行っている。その際に日常の様子を報告したり変化を相談したりしている。内容次第で往診医に連絡したり、外部受診をご家族様に相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側の求めに応じて情報提供している。また、入院期間中は可能な場合は面会に訪れ、MSWや担当看護師と相談させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りについての説明をさせて頂いており、ご希望も伺っている。また、ご希望に変更があったり疑問が浮かんだ際にはご相談いただいております、その都度対応させて頂いている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、契約時に家族・本人に説明し同意を得ています。時期を踏まえ、家族の気持ちに添いながら、話し合いや確認を重ね、支援しています。医療・看護・介護の連携を取り、対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応のフローチャートが事務所に貼りだしてあり、いつでも確認できる。また、往診医に連絡が24時間取れるので初期対応含め対応出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策委員会を置き、避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて自治会や民生委員と相談し、相互に協力出来る様になっている。	年2回夜間想定を含む避難訓練を入居者参加で行っています。法人直結の災害対応委員会があり、緊急時対応の整備をしています。災害時には自治会や近隣住民と連携し協力してもらうことになっています。非常食を日常の食事のメニューに取り入れることもあります。	飲料水、食品、介護用品などを3日分程度保管しています。現在賞味期限が迫っている食品の入れ替え時期となっているため、速やかに、整備されることも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者様の尊厳を無視した対応にならないように努めている。 ご本人の認知症に対する自覚に併せて対応させていただいている。 排泄等、他の方に分からないように対応させていただいている。	職員の行動規範や接遇について定期的に研修があります。管理者が会議や日常業務の中で対応の仕方、場面に応じた声かけなどの助言を行っています。一人ひとりの性格や状況を十分理解し、介護者の考えで行動せず、入居者本位の対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを密に取る事で、日常会話の中で出てくる希望や意思を汲み取るように努めている。 また、介助を行う場合は声掛けし、確認を取ってから介助させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各ご入居者様の生活ベースの把握に努めており、基本的にそれぞれの生活ペースや要望に合わせて支援させていただいている。 他の方との兼ね合いで対応できない時は事情を説明し、ご納得いただいたうえでお待ちいただく事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の着替えを選んでいただいたり、ご家族様からもお話を伺い、好みの洋服を用意したりしている。 毎朝、ご自分で身だしなみを整えられる方もおり、必要に応じて支援させていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養バランスも考慮し、配食サービスを利用しているが、ご要望や行事等に変更してお好みのメニューに切り替える事もある。配膳下膳等、ご自分から手伝ってくださる方もいる。	昼食・夕食は配食サービスを利用しており、朝食は職員が手作りしています。入居者のリクエストメニューを取り入れたり、誕生会、行事食、おやつ作りなどを楽しんでいます。配膳下膳、片付けを行う入居者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	配食サービスも取り入れ、栄養バランスに考慮している。食事と水分、どちらも個人個人の嚥下状態やADLを考慮し、食形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分でできる方にはご自分で行っていただき、介助が必要な方には状態に応じた支援をさせて頂いている。また、週一回、歯科往診があり、口腔内の状態確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立されている方でもお声掛けにて排泄パターンの把握に努めている。状況によっては下剤等の使用も行う事はある。ADLが持ち直してこられた方は状態に合わせてオムツからトイレ介助に切り替えた事もある。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向け、本人の様子や仕草を見ながら、さりげなく見守りや誘導をしています。本人の尊厳と意思を尊重し、声かけの仕方やトイレの扉を必ず閉めるなどプライバシーに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	10時のお茶の時間に体操を行ったり、食物繊維の多い食材をメニューに入れる等、日常的に注意している。便秘がちな方は往診医と相談の上、下剤も含めて対応を決めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	様々な理由でお断りされる事はあるが、最終入浴日が遠い方から優先的にお声掛けさせて頂いている。ご希望のある方にはその都度、お入り頂いている。	毎日風呂を沸かし、入居者は週2、3回入浴しています。入居者の希望や体調に応じ、午前中に入浴しています。入浴剤を利用したり、柚や鬼柚を浮かべて、楽しむこともあります。入浴時はリラックスし、職員と会話が弾んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各ご入居様様の体調や認知症状の進み具合など考慮し、お休みいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時の情報は申し送られている為、薬の変更等の情報は共有できている。また、薬局から処方度に薬情報を頂いており、いつでも閲覧可能になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ対応で我慢を強いている所もあるが、可能な限り、気分転換が図れ、ストレスを溜め込まないような生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、コロナ対応中で希望通りには外に出られていない。目の前が幹線道路で人通りもあるので対応が難しい。外部受診等、不要不急の外出は対応している。	現在は、コロナ禍のため近隣店舗への買い物、美容院へ行く、散歩、初詣、花見、歴史館などの外出は控えています。室内で、ラジオ体操をしたり、皆で楽しみながら、身体を動かすレクリエーションを職員が工夫し、明るく過ごせるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様か成年後見人が管理しており、ご本人は希望の物があれば職員に申し出て頂き、立て替えと言う形で対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があればいつでも対応させていただいている。テレビ電話も対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りつけや、行事に向けた飾りつけを行う事で季節の移り変わりを感じて頂いている。 リビングのテレビの音量に配慮したり、日常的な会話の声のレベルに気を付ける等している。玄関はコロナ対応の為の空間となっている為、現在は時に飾りつけ等行っていない。	リビング、浴室、トイレ、居室が廊下に沿っており、動線は分かりやすくなっています。3ヶ所あるトイレのうち、1ヶ所は脱衣所と内部で繋がっています。テレビコーナー、ソファ、テーブルなどを機能的に配置しています。室内に季節の飾り物や入居者の制作品、行事の写真などを飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ付近に3名掛けのソファがあり、少人数でくつろげるスペースとなっている。食堂の席順をご入居者様の関係性を重視して配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力で、ご自宅で使われていた家具類やオーディオ等、馴染みの物を持ち込まれていらっしゃる方もいる。また、ご家族様やご自身の昔の写真をお部屋に飾られている方もいる。家具配置はADL等を考慮して配置している。	ベッド、布団、エアコン、カーテン、照明器具、ナースコールを設置しています。入居者の使い慣れた家具、電化製品、装飾品など好みに応じて使用しています。家具の配置は本人の身体状況を配慮しています。室内の掃除などは、職員と一緒にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれのADLや認知症状の進行具合に合わせ動線の確保や居室内の配置等、考慮している。		

事業所名	グループホーム みさき豊町
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロアに理念が掲示してあり、その人らしいその人らしい生活が送れるように話し合い、ケアプラン作成に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の集まりにお声掛けいただき、参加していたが、コロナ禍で現在は開催されていない。町内会のお祭りも開催されておらず、コロナの収束まで地域参加は難しい状況にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナ対応中の為、地域交流を控えている。収束後は運営推進会議等を通して地域貢献に活かしていく予定となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、新型コロナ対応の為、開催できておらず、書面での報告や意見収集のみとなっている。以前はご家族様が面会がてら参加していただいていた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	基本的には管理者が対応している。現在、コロナ対応の為、直接の訪問は行っていないが、必要に応じてご連絡させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催しており、身体拘束に至りそうなご入居者様について話し合い、身体拘束に至らぬように注意している。 玄関等、電子ロックを使っているが、防犯と安全面を重視した為のものである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記、身体拘束委員会に併せて虐待に至りそうなケースも話し合われており、逆谷の防止に勤めている。また、虐待防止研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されているご入居者様はいらっしゃるが、制度そのものについて職員への周知が足りていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が対応している。契約内容等は個人情報保護の観点から何時でも見られる状況にはないため、内容を知らない職員が多い。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン更新時等、随時ご意見をうかがい、プランに反映させている。また、日常的にご連絡させていただいたときなどに現状報告をかねてご要望等を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ご意見ノートや日常のコミュニケーションから意を上げてもらい、対応出来る処から反映させている。フロアリーダーや管理者に意見を寄せる事で運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月、施設から本社に上げている月報や各種連絡時の報告にて職員や管理者の動向把握に努めている。人員不足が続いており、職員の負担が大きくなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人作成の研修素材が有り、定期的に施設内研修を行なっている。但し、3密を避ける為、資料の配布と提出という形を取っている。フロアリーダー主催で定期的に施設内研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ対応もあり、外部との交流はない状態である。系列施設との連絡事項や地域包括との連絡は管理者が継続している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談時から要望や不安点を伺い、ご説明を繰り返す事で安心してご入居いただけるように努めている。その際の記録を回覧し情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面談調査以外にも随時、お電話等で不明点や疑問点の相談を受けており、その都度、ご安心して頂けるようにご説明させて頂いている。入居後はその都度、職員間やご家族様で話し合い、実行できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談時にADL等、ご本人の状態観察をさせて頂き、ご家族様ともお話の上で必要な支援を探っています。入居後はその都度、職員間やご家族様含めて話し合い、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様の生活ペースに合わせた事業所理念が日常のケアに反映される様にサービス提供時は心掛けています。ご入居者様からの申し出でお手伝いして下さる事や世間話をする事も多く、コミュニケーションは取れている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ対応の為、面会等、直接の支援は難しいが、毎月の報告やケアプラン更新、異変時の連絡相談等、随時ご連絡させて頂く事で共存を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナ対応で面会中止が続いているが、オンライン面会や窓ガラス越しの面会などで対応させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	意思疎通が取れず、難しい方もいらっしゃるが、それぞれの個性や性格を活かしながら声をかけ間に入って関係を築けるように支援している。食事の座席位置に配慮したり、リビングでの居場所など気を配り、トラブルにならないように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が主に対応している。他施設への移動や看取り後の支援等、ご希望や状況に応じて支援させて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の介助時等、日頃の様子観察や日常会話、モニタリング作業でご本人の意向や希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談調査でお話を伺い、ご本人様やご家族様、担当ケアマネージャー等から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、それぞれの方の様子観察や身体観察を常に行い、生活記録をとり、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の生活の様子からアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行いご家族様、ご本人様に説明しご意見を伺ったうえで再度内容の調整を行い、実際のケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、各ご入居者様毎の生活記録を書いている。また、特記事項は日報に残し、朝と夕に申し送る事で情報共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じてケアプランの変更や区分変更、場合によっては他の介護サービスを進めるなど、ご本人とご家族様の状況に合わせてご相談させていただき、それぞれに合わせた支援を行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアさんや自治会のお祭りなど参加させて頂いていたが、コロナ禍で不可能になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設往診で対応可能な方は往診を受けて頂いている。 ご希望があれば外部受診も可能。 定期的な外来受診もフォロー出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週一回、訪問看護師が来所し、ご入居者様の体調管理を行っている。その際に日常の様子を報告したり変化を相談したりしている。内容次第で往診医に連絡したり、外部受診をご家族様に相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側の求めに応じて情報提供している。また、入院期間中は可能な場合は面会に訪れ、MSWや担当看護師と相談させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りについての説明をさせて頂いており、ご希望も伺っている。入居中にご希望に変更があったり疑問が浮かんだ際にはご相談いただいております。その都度対応させて頂いている。往診医や訪問看護師含めて相談し対応させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応のフローチャートが事務所に貼りだしてあり、いつでも確認できる。また、往診医に連絡が24時間取れるので初期対応含め対応出来ている。リーダー主導で研修を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策委員会を置き、避難訓練を行なっている。運営推進会議を通じて自治会や民生委員と相談し、相互に協力出来る様にしている。シフトの都合で参加できていない職員もいるが、訓練内容を申し送っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声のトーンや表情の変化などに気を付け、ご本人の気持ちに沿った支援ができるようにしている。ご本人の出来る事、出来ない事等、その方に応じた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示の難しい方は表情や行動から気持ちを汲み取るなど、ご入居者様一人一人に合わせたコミュニケーションの取り方で意思疎通を図り、自己決定や希望を通じやすくできるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人それぞれのペースに合わせて過ごして頂けるように入浴や食事など提供させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の着替えを選んでいただいたり、ご家族様からもお話を伺い、好みの洋服を用意したりしている。毎朝、ご自分で身だしなみを整えられる方もおり、必要に応じて支援させて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養バランスも考慮し、配食サービスを利用しているが、ご要望や行事等に変更してお好みのメニューに切り替える事もある。配膳下膳等、それぞれのADLや症状に合わせたお手伝いをして下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	配食サービスも取り入れ、栄養バランスに考慮している。食事と水分、どちらも個人個人の嚥下状態やADLを考慮し、食形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分でできる方にはご自分で行っていただき、介助が必要な方には状態に応じた支援をさせて頂いている。また、週一回、歯科往診があり、口腔内の状態確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	現状、トイレ使用者が殆どである。パット類やリハパンの使用者はいるが、排泄パターンの把握に努め、パット交換の回数を減らしたりサイズを小さい物に切り替えられるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	10時のお茶の時間に体操を行ったり、食物繊維の多い食材をメニューに入れる等、日常的に注意している。便秘がちな方は往診医と相談の上、下剤も含めて対応を決めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を嫌がられる方が多いが、声掛けのタイミングや内容の工夫で気持ちよくご入浴して頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各ご入居者様の体調や認知症状の進み具合など考慮し、お休みいただいている。また、夜間の様子（眠っているか）や体力面などからお昼寝を進めることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時の情報は申し送られている為、薬の変更等の情報は共有できている。また、薬局から処方度に薬情報を頂いており、いつでも閲覧可能になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ対応で我慢を強いている所もあるが、可能な限り、気分転換が図れ、ストレスを溜め込まないような生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、コロナ対応中で希望通りには外に出られていない。目の前が幹線道路で人通りもあるので対応が難しい。外部受診等、不要不急の外出は対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様か成年後見人が管理している。ご本人は希望の物があれば職員に申し出て頂き、立て替えと言う形で対応させていただいている。また、店舗への買い物はコロナ対応の為、職員が代理で行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があればいつでも対応させていただいている。テレビ電話も対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りつけや、行事に向けた飾りつけを行う事で季節の移り変わりを感じて頂いている。コロナ対策で換気の為、窓を開けている事が多いが、寒い時などは様子を見て閉めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ付近に3名掛けのソファがあり、少人数でくつろげるスペースとなっている。リビングの座席配置を仲の良い方を近づけたり、ご入居者様の日々の様子で変更する事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力で、ご自宅で使われていた家具類やお気に入りのぬいぐるみ等、馴染みの物を持ち込まれていらっしゃる方もいる。また、ご家族様やご自身の昔の写真をお部屋に飾られている方もいる。家具配置はADL等を考慮して配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれのADLや認知症状の進行具合に合わせ動線の確保や居室内の配置等、考慮している。		

2020年度

事業所名 グループホーム みさき豊町

作成日： 令和 3年 5月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人理念があり、そのまま事業所の理念としているが、施設独自の理念の設定がない。	法人理念を踏まえた施設独自の理念を作成し、実践につなげる。	職員会議等や申し送り等で話し合う。	2ヶ月
2	13	非常食を3日分程度ストックしているが賞味期限が近いので入れ替えが必要。	非常食の買い替えと7日分を目標に買い足す。	期限が切れそうなものは食事時に提供する。その分の補充を行ない、充足を目指す。作成日時時点で完了済み。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月